

【学位論文審査の要旨】

本研究は、介護予防プログラムを実施するにあたり、当該参加者がどのような動機づけや健康感などのいわゆる健康に対する信念をもっているのかを作業療法士が把握し、より効果的なプログラムを提供できるかを明らかにする目的で行われたものである。健康統制感とは Rotter によって提唱された統制の所在 (locus of control, 以下 LOC) を Wallston らが改変し、病気や健康に対する特異的な LOC 尺度としたものである。LOC 概念は行動をコントロールする主体をどこに求めるかという信念を問う尺度であり、出来事 (結果) が自分の行動に随伴すると認識される場合を内的統制、逆に自分自身の行動に随伴していない、あるいは運や偶然の結果であると認識される場合を外的統制とした。健康統制尺度はこれを元に開発されたものであるが、外的統制をさらに強力な他者と運に分け、多次元の観点から健康統制感を測定する尺度とした。本研究では日本版の健康統制尺度を用いて健康に対する信念とプログラムのもつ特性との関連性を明らかにしようとしたものである。

主論文に先行して、身体運動を中心とした運動プログラムの参加者において健康統制感や健康関連 QOL との関連を検討し、健康関連 QOL の向上を示した対象者では介入後に外的統制傾向となる傾向が認められ、こうしたプログラムのように専門家から提供される性質のものに対しては内的統制者よりもマッチする可能性が考えられた。次に内的統制の傾向をもつ参加者に着目した研究を行い、人間作業モデルに準拠した講義プログラムの方が運動プログラムよりも SF-36 の活力が向上し、より効果的と考えられた。

主論文では作業療法における伝統的な手工芸プログラムと人間作業モデルの講義プログラムの各参加者 (地域高齢者) を対象とし、高齢者の健康統制感と効果指標との関係に与える影響について、ランダム化比較試験を用いて解析したものである。結果は、メインアウトカムである健康統制感には優越性が認められなかったが、人間作業モデルに準拠した群は介入後に健康統制感と健康関連 QOL 指標との関連が強くなることが明らかとなった。

本論文は研究目的が明確であり、先行研究が十分検討されており、エビデンスレベルの高い研究方法を用いている。また、結果の解釈が真摯に行われ、仮説を支持しないデータの解釈についても言及できている。研究内容は地域における作業療法支援技術分野に貢献する臨床的研究という点で新規性があり、作業療法の学術的発展に寄与すると思われる。客観性を高め、説得力のある結論を算出している点も高く評価でき、高齢者の健康増進のための重要な資料ともなり、社会的意義も大きいと認めるものである。

最終試験では、サンプルサイズや研究手法などについての質疑において非常に真摯な態度で臨み、柔軟かつ明確な対応で適切に答えられていた。また、関連分野に関する十分かつ幅広い知識、研究者としての熱意、今後の展望を有していることも確認された。さらなる研究に対する意欲も認められ、総合的に、本研究領域の知見について深く理解

博士学位論文審査の要旨

していると考えられた。

以上のことから、本研究の趣旨および内容、そして質疑応答を総合的に判断し、本研究が博士論文に値すること、著者が博士の学位(作業療法学)に相当することを認める。